あかり木通信

2012年6月号

あかり木診療所

おかげさまで一周年

「あかり木診療所」は、二〇一一年六月二日に「職員二名・ピンチヒッターなし」の体制でスタートしました。院長は（不養生から）のどをいためて、声が出なくなってしまい、診療所にいらした方から逆に「お大事に！」と声をかけられる日もありましたが、なんとか臨時休診などもなく無事に一年目を迎えることができました。ありがとうございました。

院内調剤システム

電子カルテと連動した調剤システムの導入で、簡単にお薬を「一包化」（何種類かの薬をひとつにまとめて包装する）してお渡しできることは、「一回にのむ薬がわかりやすい」、「のみ忘れがなくなる」など、大変好評をいただいています。普段は便利なこのシステムも、パソコンが不調になった時には、大変です。一度だけ、どうしてもパソコンが起動しなくなり、多大なご迷惑をおかけしたことがありました。申し訳ありませんでした。

待合室の風景

毎日の待合室では、小さなお子様連れの方（この一年間で診療所にかかられた方の約四割が小学生以下のお子様でした）にやさしく声をかけるご年配の方、ご家族何人かでいらした方にいっしょに座っていただけるよう席を譲ってくださる方、他の方のために扉の開閉を席を立ってお手伝いくださる方など、さまざまな思いやりあふれる光景がみられます。何かしら診療所にかかることが必要でお越しになっている方々どうしが、互いに声をかけあったり、気遣ったりなさっている様子を見ていると、心の中にある「気（木）」に「あかり」が灯るような温かな気持ちになります。まさにこれが「あかり木診療所」です！

はなをかむことの大切さ

よくかぜをひく、かぜになるとなかなかなおらないという子の中に、じょうずにはなをかむことのできない子がいます。診療所常連だったOくん（年長組）は、「手洗い」と「はなかみ」の習慣をしっかりつけるだけで、かぜをひきにくくなりました。診察室で気になったときには、直接はなのかみかたを教えています。

《はなかみのポイント》

①ティッシュはたたんで両手でもつ②口で大きく息を吸って口をとじて③片方ずつ④強くかみすぎない

錠剤は何歳から？

うちの子は小学五年生なのにまだ錠剤がのめない、と嘆いているお母さんがいました。錠剤は何歳からのめるようになるものなのでしょうか。中には幼稚園生で平気で錠剤をのんでいる子もいますが、だいたい十歳前後でのめるようになることが多いようです。しかし、そうでもない子もいます（決して異常ではありません、と思います）。あかり木診療所の院長は、高校を卒業するまで錠剤をのめませんでした。口の中にくすりをいれて、そのあとどんなに水をのんでも、お腹の中に入っていくのは水だけ。いつまでも口の中にくすりだけが残ってしまい、お腹はタポタポになるし、くすりは溶けだして変な味になるし・・・。本当にくすりはイヤでした。そんな子も大丈夫、最近は、口の中で溶けるタイプのくすりもあります。（院長は今でも目ぐすりが苦手で、子どもにさしてもらっています。）

「あかり木診療所」の広告

診療所近くを走る京急路線バスの中に、「あかり木診療所」の広告があることをご存知でしたか？　ご覧になった方もいらっしゃるでしょうか？　ただし、「見た！」と言っても何の特典もありません・・・。バスの中にあるのと同じプレートが診察室の中にもあるので、探してみてください。「見つけた！」と言っても何の特典もありませんが・・・。